

平成19年度 専門教育科目授業日程計画

前 期								後 期										
曜日	日	月	火	水	木	金	土	備 考	曜日	日	月	火	水	木	金	土	備 考	
4 月	1	2	3	4	5	6	7	1日～7日 春季休業 2日 新入生オリエンテーション・TOEIC-IPテスト 9日 入学式、新入生オリエンテーション 10日 授業開始 10日 新入生健康診断(第2グループ) 29日～5月5日 特別休業 29日 昭和の日 30日 振替休日	10 月			1	2	3	4	5	6	1日 授業開始 8日 体育の日 * 9日は月曜日の授業を行う。 22日 開学記念日
	8	9	10	11	12	13	14			7	8	9	10	11	12	13		
	15	16	17	18	19	20	21			14	15	16	17	18	19	20		
	22	23	24	25	26	27	28			21	22	23	24	25	26	27		
	29	30								28	29	30	31					
5 月			1	2	3	4	5	3日 憲法記念日 4日 みどりの日 5日 こどもの日	11 月					1	2	3	3日 文化の日 23日 勤労感謝の日 【23日～25日 大学祭】 22日 3～5時限 臨時休業(大学祭準備) 26日 1～5時限 臨時休業(大学祭片付け) * 27日は月曜日の授業を行う。	
	6	7	8	9	10	11	12			4	5	6	7	8	9	10		
	13	14	15	16	17	18	19			11	12	13	14	15	16	17		
	20	21	22	23	24	25	26			18	19	20	21	22	23	24		
	27	28	29	30	31					25	26	27	28	29	30			
6 月						1	2	25日～8月7日 期末試験期間	12 月							1	23日 天皇誕生日 24日 振替休日 25日～1月7日 冬季休業	
	3	4	5	6	7	8	9			2	3	4	5	6	7	8		
	10	11	12	13	14	15	16			9	10	11	12	13	14	15		
	17	18	19	20	21	22	23			16	17	18	19	20	21	22		
	24	25	26	27	28	29	30			23	24	25	26	27	28	29		
7 月	1	2	3	4	5	6	7	16日 海の日 * 17日は月曜日の授業を行う。 25日～8月7日 期末試験期間	1 月			1	2	3	4	5	1日 元日 * 9日は月曜日の授業を行う。 14日 成人の日 19日・20日 大学入試センター試験	
	8	9	10	11	12	13	14			6	7	8	9	10	11	12		
	15	16	17	18	19	20	21			13	14	15	16	17	18	19		
	22	23	24	25	26	27	28			20	21	22	23	24	25	26		
	29	30	31							27	28	29	30	31				
8 月				1	2	3	4	25日～8月7日 期末試験期間 8日～9月30日 夏季休業	2 月						1	2	4日～18日 期末試験期間 11日 建国記念の日 19日～3月31日 臨時休講 25日・26日 一般選抜(前期日程)	
	5	6	7	8	9	10	11			3	4	5	6	7	8	9		
	12	13	14	15	16	17	18			10	11	12	13	14	15	16		
	19	20	21	22	23	24	25			17	18	19	20	21	22	23		
	26	27	28	29	30	31				24	25	26	27	28	29			
9 月							1	17日 敬老の日 23日 秋分の日 24日 振替休日	3 月							1	臨時休講 12日 一般選抜(後期日程) 20日 春分の日 25日 卒業式	
	2	3	4	5	6	7	8			2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15			9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22			16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29			23	24	25	26	27	28	29		
30							30	31										
前期計	17	16	16	16	16			授業週数(含試験)	後期計	16	16	17	$\frac{18}{17}$	17			授業週数(含試験)	

7月17日を含む ↑

10月9日、11月27日及び1月9日を含む ↑

は休業日及び臨時休講、太字は期末試験日

講座・教育研究分野の紹介

薬学部薬学科

医療薬学講座

教育研究分野	教 育 研 究 内 容
臨床薬学	生活習慣病における血管障害の成因解明と薬物治療の教育と研究 ○生活習慣病モデルにおける血管周囲神経機能変化と治療薬の影響に関する研究 ○カルシトニン遺伝子関連ペプチド（CGRP）作動性血管拡張性神経機能の神経薬理・分子薬理学的研究 ○インスリン抵抗性における血圧調節機構に関する研究 ○ニコチンの血管弛緩作用機序に関する研究 ○生活習慣病・老化に関与する生理活性物質に関する生化学薬理学的研究 ○血管周囲神経の分布・再生に関する研究 ○血管周囲神経の分布・再生を標的とする新規抗がん薬の開発研究
臨床薬効解析学	好氣的代謝に付随する酸化的ストレスによる疾患(生活習慣病・医薬品の副作用を含む)とその予防・治療的機能素材の開発、体内における反応を代謝・反応の知識や理解に基づく薬物治療の適正化について教育・研究を行う。 ○疾患と活性酸素ラジカルとの関連追究 ○非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)と酸化的ストレスとその予防・治療に関する研究 ○生体内活性酸素ラジカル種に対する調節機能素材の探究・開発 ○漢方薬・生薬・伝承薬の抗酸化やアレルギー調節機能および体内動態に関する研究
薬物療法設計学	合理的な薬物療法の設計を目的とし、局所における薬物動態特性とこれに関連する製剤特性の新規評価法の開発、患者病態特性を含む個別の医療要請に応じた薬物療法の設計について教育・研究を行う。研究テーマは、 ○局所作用型DDS医薬品の局所非結合形薬物動態評価法の開発に関する研究 ○放出制御型DDS医薬品の開発と評価に関する薬物動態学研究 ○速度論的解析手法を応用した薬効動態発現過程の解析に関する研究 ○新規被覆型外用製剤の開発に関する基礎研究 ○高機能（DDS）医薬品製剤の適正使用に関する製剤学・薬物動態学研究 ○特殊医療条件下（腹膜透析等）における薬物療法設計に関する薬物動態学研究 ○病態時における薬物の体内動態変化に関する研究
分子医薬品情報学	制がん剤と抗マラリア薬の創製とがんとマラリアの制御に関する教育・研究を行う。研究テーマは ○新規抗マラリア薬の開発及び抗マラリア作用機序の解析研究 ○マラリアの遺伝子診断法の開発研究 ○DNA二本鎖切断酵素の精製及び細胞死の分子機構の解明に関する研究 ○抗癌剤の作用機序に関する研究 ○ヒト遺伝子SNPsと抗がん剤のレスポンスに関する研究
国際感染症制御学	我が国を取り巻く諸感染症および熱帯病の制御に関する教育・研究を行う。研究テーマは、 ○抗マラリア作用を有する天然資源の探索および作用メカニズムの解析研究 ○マラリア原虫の分子生物学の基盤構築に関する研究 ○薬剤耐性マラリアの耐性機構の解析研究
薬品作用学	既存薬物の薬理作用及び作用機序の解析、新規薬物開発のための新しい疾患モデルの作製と薬物作用評価等についての教育・研究を行う。研究テーマは、 ○てんかんの病態解明と抗てんかん薬の作用機構 ○学習と記憶に関する行動薬理ならびに神経生理学的研究 ○睡眠障害モデルの作製と各種睡眠薬の影響 ○花粉症モデルの作製とその応用 ○アトピー性皮膚炎モデルの作製と抗アレルギー薬の効果

教育研究分野	教育研究内容
生物薬剤学	<p>薬物の体内動態の解析とその制御に関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい薬物投与剤形（ドラッグデリバリーシステム）の開発に関する研究 ○薬物の消化管粘膜透過機構とその改善に関する研究 ○薬物の経皮・経粘膜吸収機構とその改善に関する研究 ○薬物吸収の速度論的予測 ○薬物の組織特異的分布の機構解析 ○薬物の体内消失過程の速度論的解析 ○病態時の薬物動態異常の解析に関する研究 ○微粒子製剤の体内動態の解析と薬物キャリアーとしての応用に関する研究
医薬品構造反応学	<p>生理活性物質と生体（モデル）分子との分子間相互作用を基礎にして、生理活性物質の反応性、分子認識機構の解析とセンサー開発への応用などについて教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○細胞膜と薬物の相互作用の研究 ○光増感反応による活性酸素の生成とその機構 ○人工レセプターを用いるセンサー開発 ○センサー法と分光法とを組み合わせた新しい研究方法の開発 ○計算化学を基礎とした分子間相互作用の解析
医薬分子設計学	<p>「分子による医療貢献」を研究理念に、新規医薬分子を設計・創製すると共に、医薬分子設計法を新たに確立することを目指した研究を通じ教育を行なう。研究手法は、分子モデリング、有機合成並びに細胞等を用いた生物活性評価である。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○薬剤耐性原虫にも有効な新規抗マラリア薬の開発研究 ○核内受容体を標的とした細胞分化制御物質の開発研究 （癌細胞を正常細胞へ導く「分化誘導剤」の開発など） ○抗炎症作用および抗癌作用が期待できる新規酵素阻害剤の開発研究 （シクロオキシゲナーゼ、エラスターゼ、ピューロマイシン感受性アミノペプチダーゼなどを標的に） ○糖尿病治療薬を目指したグルタミン酸受容体アゴニストの開発研究 ○ピリダジンジオン構造を基本骨格とした新規化学発光物質の開発研究 ○新規構造（骨格）を有する複素環化合物の合成とその生理活性の探求 など
蛋白質機能制御科学	<p>生命体が生存するためには、細胞内で生合成したタンパク質を成熟化させなければいけない。すなわち生合成したタンパク質を目的の部位に移行させ、さらに活性構造を構築させる必要がある。このタンパク質の成熟化過程を、細菌の菌体外タンパク質毒素を中心に教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タンパク質の産生に関わるシャペロンの作用機構の解析 ○細菌の病原性を支配するタンパク毒素の産生調節機構の解明 ○哺乳動物細胞でのタンパク毒素の作用機構の解析 ○細菌の病原性に関わる因子の遺伝子転移機構の解析 ○タンパク質の膜通過機構の解析
遺伝子毒性科学	<p>生物は外的内的要因により、多くの傷害を受けながら様々な修復機構を稼働して生存している。このような生物の対応を特に遺伝子への傷害と修復の関係を中心に教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○紫外線やX線による体細胞傷害ならびにDNA傷害に対する生体応答 ○アルキル化剤や酸化によるDNA傷害に対する修復機構と突然変異ならびにアポトーシス誘発との関係 ○体細胞突然変異抑制物質の検索と抑制作用の解明 ○タバコ副流煙の生体への影響

教育研究分野	教 育 研 究 内 容
分子毒性薬科学	<p>遺伝子傷害・突然変異誘発機構の解明を通して、発がん機構と発がん予防に関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発がん物質と太陽光の光増感反応による遺伝子損傷と変異。発がんの機構解明。 ○突然変異・遺伝子障害を抑制し、発がんを予防する有用物質の研究と作用機構解明。 ○環境汚染物質の検出・安全性と防護の研究
遺伝情報解析科学	<p>生体高分子情報の解析を基礎として、遺伝子の発現調節機構、遺伝子情報の有用応用、蛋白質の構造・機能相関に関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遺伝子操作による蛋白質の構造・機能相関に関する研究 ○細菌の病原因子発現調節の分子遺伝学的研究 ○鉄レギュロンの分子遺伝学的研究 ○新規ポリアミンの生理的役割と生合成経路の解明 ○腸管出血性大腸菌の病原因子に関する研究
衛生代謝化学	<p>医薬品を含めた生体異物の、生体に及ぼす影響を代謝化学的立場から分子レベルで解明するための教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○薬物代謝酵素の遺伝子多型と酵素機能の関連性 ○光学活性薬物の代謝反応における立体選択性発現機構 ○医薬品による副作用発現の分子機構 ○環境化学物質の代謝と毒性発現 ○外来化学物質に対する感受性に影響を及ぼす遺伝的要因 ○薬物代謝酵素の制御機構 ○薬物相互作用のin vitro予測系構築
環境生物薬学	<p>環境汚染物質や環境病原微生物など健康に影響を及ぼすリスク要因の分析、生体への作用機構、環境中での動態などについて教育・研究を行う。研究テーマは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○細胞溶解毒素の構造と機能ドメインに関する研究 ○細菌プロテアーゼの毒作用と産生調節に関する研究 ○細菌細胞間、および細菌宿主細胞間のコミュニケーションに関する研究 ○病原細菌のヘム獲得戦略の解析 ○病原ビブリオの生態学および分子疫学的研究 ○微生物による環境汚染物質の分解に関する研究
免疫医薬品化学	<p>免疫機能の制御機構、それをコントロールし免疫疾患に有効な生体内物質や天然物質、非自己の侵入により傷害を受けた組織の再生制御機構とそれを調節する増殖・分化誘導因子などに関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Bリンパ球活性化、分化及びアポトーシスの制御並びにそれらをコントロールする物質に関する研究 ○IgE産生とアレルギーを制御する物質に関する研究 ○NK細胞を活性化し癌細胞を抑制する生理活性物質に関する研究 ○肝細胞増殖因子（HGF）の機能と産生制御に関する研究 ○HGF産生誘導物質による組織再生とその応用 ○神経細胞の分化誘導物質に関する研究
生体機能調節化学	<p>生体防御をはじめとする生体機能を調節する生体成分及び食品成分の機能解析、機能発現に必要な構造の解析とそれら成分の改変による高効率な機能を付加した食品・医薬品素材の開発に関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アスコルビン酸の化学修飾とその応用 ○生体成分及び食品成分の機能性評価に関する研究 ○機能性素材の化学構造と生理活性との相関に関する研究

教育研究分野	教 育 研 究 内 容
医薬管理学	<p>附属病院薬剤部と共同に臨床上の問題解決能力に不可欠である先端科学の基礎知識と研究マインドを持った臨床薬剤師と臨床における問題点に視線を常に向ける基礎薬学（精神神経薬理学）研究者の育成を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 治療抵抗性うつ病の病態解明および次世代の抗うつ薬開発 ○ 各種精神疾患の動物モデル作製および病態解明 ○ 移植医療における免疫抑制剤の適正使用に関する研究 ○ エビデンスに基づく医薬品適正使用法に関する研究

薬学部創薬科学科

医薬品開発科学講座

教育研究分野	教 育 研 究 内 容
分子薬化学	<p>有機化合物、核酸や生体関連化合物、細菌産生毒素、ビタミン類縁化合物などのヘテロ環化合物の合成、反応、および生理・生理活性などについての教育・研究を行う。研究テーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> ○核酸関連化合物類の合成及び各種生物活性、抗ウイルス・抗腫瘍活性分子設計 ○フラビン及びNAD(P)⁺モデル有機触媒の創製と自動循環酸化還元反応の応用研究 ○アザプテリジン系抗生物質及びフラビン類縁化合物の合成と抗菌、抗原虫、抗腫瘍活性分子設計 ○核酸類縁化合物の新規リン酸化及びグリコシル化反応の研究と応用 ○キサンチンオキシダーゼ阻害作用を有する縮合プリン及びピリミジン類縁化合物の合成と活性分子設計 ○ハイブリッドステロイドヘテロ環化合物の合成と薬理活性に関する研究
生薬化学	<p>生薬や機能性食品として利用される植物資源について、利用の基礎となる成分の化学を中心に、教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生理活性天然有機化合物の化学構造研究 ○生薬・食品中の対微生物作用物質の研究 ○漢方処方の有効性の化学的基礎付けに関する研究 ○機能性ポリフェノールの生体内挙動に関する研究 ○機能性食品素材の有効性およびリスク評価に関する研究 ○プレバイオティクス作用を有する天然素材の開発研究 ○植物培養細胞による有用物質の生産に関する研究
薬品製造学	<p>有機化学を基軸とした医薬品創製に関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい反応と合成法の開発に関する基礎的研究 ○天然物の合成に関する研究 ○化学構造と生理活性との相関研究

教育研究分野	教 育 研 究 内 容
生体膜機能生化学	<p>生体膜は生命のいれものです。生体膜で起こる様々な現象を共に見つけ、命が育まれる過程を共に学びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メラトニン合成酵素(NAT)の構造生物学 ○グルタミン酸シグナリング ○神経・内分泌細胞におけるDアスパラギン酸の生合成とシグナル伝達機構 ○小胞型グルタミン酸トランスポーターの膜生化学・分子生物学的研究 ○液胞型プロトンポンプ(Vacuolar ATPase)と酸性オルガネラの生化学 ○開口放出に参与するPSフリッパーゼの分子細胞生物学
膜蛋白質機能科学	<p>生体膜は生命活動において中心的な役割を果たしています。トランスポーターによる物質輸送に焦点をあてて、生体膜の機能をについて教育・研究を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小胞型グルタミン酸トランスポーターの分子機構の解析 ○有機アニオントランスポーターの分子生化学 ○MATE型薬剤排出トランスポーターの薬剤排出機構の解析 ○P-糖タンパク質の構造機能相関
分子微生物学	<p>人類の最大の死亡原因である微生物感染症の治療と予防をテーマに教育・研究を行っている。特に、薬剤耐性菌における耐性の分子メカニズムの解明、耐性菌を退治するための新規医薬品の開発等を目指して、次のようなテーマで研究を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○薬剤耐性菌における耐性機構の分子生物学的研究 ○薬剤耐性菌にも有効な新規抗菌薬・予防薬の開発 ○薬剤耐性系阻害薬（耐性抑制薬）の開発 ○薬剤耐性菌による院内感染の対策
ゲノム応用微生物学	<p>ゲノム情報を駆使して、微生物の生命維持機構、特にイオン輸送を介した環境適応、抗菌薬耐性などについて教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○薬剤排出ポンプの機能の分子機構に関する研究 ○細胞膜におけるエネルギー転換に関する研究 ○食中毒菌の環境適応に関する研究、等。
医薬品分析開発化学	<p>医薬を中心として有益な分析法の開発と、種々の機器による薬物、その代謝物及び生体関連物質の構造に関する研究・教育を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人工固体酵素の開発と応用 ○安定金属同位体を用いた生体関連金属キレート振動スペクトルの解析とその構造化学的研究 ○共鳴ラマンスペクトルを用いる医薬品及び生体関連化合物の基準振動の解析とその分析化学的研究 ○癌の核医学画像診断・治療薬剤に関する研究
薬品分析化学	<p>生体成分と医薬品等の様々な化合物との相互作用に関する研究、及び、様々な機器や試薬を用いる生体関連物質や医薬品の代謝物の分析法の開発に関する研究・教育を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生体内イオンの新しい分析法の開発とその応用 ○血液成分の微量定量法の開発 ○新規高速液体クロマト用充てん剤の開発
薬品構造解析学	<p>医薬品や生体関連物質および環境汚染物質などの分析法、これらの微量分析における同定や定量法などについて研究・教育を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境汚染物質の分析法に関する研究 ○医薬品の微量同定法に関する研究 ○生体関連の金属キレートの機能とその応用

平成19年度 開講科目(専門教育科目)

I 専門基礎科目

授 業 科 目	教 員	単 位		配当 年次	備 考
		前期	後期		
物理化学	勝	2		1	
有機化学Ⅰ	竹内, 阿部	2		1	旧科目名: 有機化学
生物化学Ⅰ	根岸, 土屋, 有元	2		1	旧科目名: 細胞生物学
生理学	龜井		2	1	
生物化学Ⅱ	岡本, 有元, 表		2	1	旧科目名: 生理化学Ⅰ
生物化学Ⅲ	森山, 表	2		2	旧科目名: 生理化学Ⅱ (病態生化学を含む。)
生物統計学	有元, 黒田	2		2	旧科目名: 生物学的検定法

II 専門科目

授 業 科 目	教 員	単 位		配当 年次	備 考
		前期	後期		
無機薬化学	永松	1		1	
薬用植物学	伊東	2		1	
薬品物理化学Ⅰ	勝		2	1	
有機化学Ⅱ	永松, 佐々木, 廣田		2	1	旧科目名: 有機薬化学Ⅰ
生薬学Ⅰ	波多野, 谷口		2	1	
微生物学	土屋, 黒田, 小川, 塩田		2	1	
医療薬学入門	北村(佳), 四宮, 他各教員	1		1	薬学科
創薬科学入門	表, 他各教員	1		1	創薬科学科
薬品物理化学Ⅱ	勝	2		2	
薬品分析学Ⅰ	御船	2		2	
有機化学Ⅲ	竹内, 佐々木, 廣田	2		2	旧科目名: 有機薬化学Ⅱ
生薬学Ⅱ	波多野	2		2	旧科目名: 生薬学Ⅱ (漢方薬学を含む。)
生物化学Ⅳ	岡本, 中尾, 高橋	2		2	旧科目名: 薬品化学Ⅰ
薬剤学	木村	2		2	旧科目名: 薬剤学Ⅰ
薬効解析学Ⅰ	龜井	2		2	旧科目名: 薬物学Ⅰ
感染症治療学	土屋, 黒田, 小川	2		2	旧科目名: 微生物薬品化学 (醗酵化学を含む。)
人体解剖学	大塚(愛), 田口, 西田, 内藤, 百田	2		2	
放射薬品学・放射線概論	三好, 中尾, 大塚(正)	2		2	
生物物理化学	勝		2	2	
薬品分析学Ⅱ	齋藤, 北村(陽)		2	2	
生物化学Ⅴ	中尾		2	2	旧科目名: 生体情報解析学・細胞情報伝達科学
生体防御機能学Ⅰ	合田		2	2	旧科目名: 生物薬品製造学Ⅰ (薬品免疫学Ⅰ)

授 業 科 目	教 員	単 位	配当	備 考
---------	-----	-----	----	-----

授 業 科 目	教 員	単 位		配 当 年次	備 考
		前 期	後 期		
製剤学	佐々木		2	2	旧科目名：医薬品設計学・製剤学
薬効解析学Ⅱ	龜井		2	2	旧科目名：薬物学Ⅱ
衛生薬学Ⅰ	埴岡		2	2	旧科目名：衛生化学Ⅰ
有機反応化学	阿部		1	2	旧科目名：医薬品製造学
医薬品構造解析学	岩藤		1	2	
漢方処方学	伊東		1	2	
コンピュータ化学	佐々木, 増田, 加来田, 玉懸, 安野		2	2	
癌の生物学	有元, 根岸		2	2	旧科目名：薬品化学Ⅱ
病理学	荻野		2	2・3	隔年開講：平成19年度－合同実施
内分泌化学	景山, 小倉		2	2・3	隔年開講：平成19年度－休講
薬品製造工学	武藤		2	2・3	隔年開講：平成19年度－休講
医薬化学	永松, 藤井(信)	2		3	旧科目名：合成薬品製造学Ⅰ
衛生薬学Ⅱ	三好	2		3	旧科目名：公衆衛生学
衛生薬学Ⅲ	成松, 山田	2		3	旧科目名：衛生化学Ⅱ
生体防御機能学Ⅱ	合田	1		3	
薬効解析学Ⅱ	龜井	2		3	旧科目名：薬物学Ⅱ
生物薬剤学	檜垣	2		3	
薬物治療学Ⅰ	川崎, 柴田	2		3	旧科目名：臨床薬学Ⅰ
医薬品情報学	綿矢, 赤松, 木村(幹), 井上	2		3	
ゲノム創薬学	黒田	1		3	
調剤学	木村, 伊吹, 小西, 小林	2		3	旧科目名：薬剤学Ⅱ
複素環化学	竹内, 加来田, 長		2	3	旧科目名：有機薬化学Ⅲ
病院薬学	千堂	2		3	
衛生薬学Ⅳ	三好		2	3	旧科目名：環境衛生化学
薬効解析学Ⅲ	杉本		2	3	旧科目名：薬物学Ⅲ
薬物治療学Ⅱ	高山		2	3	旧科目名：臨床薬学Ⅱ
臨床医薬品治療学Ⅰ	金, 井上, 福島		2	3	
臨床医薬品治療学Ⅱ	黒崎, 合葉, 政田		2	3	
医薬品開発学	合葉, 中村	1		3	
薬事法規	土岐		1	3	旧科目名：薬事法規
薬事行政	土岐		1	3	
コミュニティファーマシー	藤波, 出石, 赤松, 緋田, 高木		1	3	
臨床薬学	川崎, 黒崎, 高山, 合葉, 北村(佳), 四宮, 岡崎		2	3	旧科目名：臨床薬学Ⅲ

授 業 科 目	教 員	単 位		配 当 年次	備 考
		前 期	後 期		
細胞療法・診断学	田井, 合田, 小出, 滝川		2	3	旧科目名：免疫療法学

国際医療保健学	篠田, 岡本, 綿矢, 三好, 有元, 北村(佳), 高橋, 越智, 山田, 下野, 片岡, 中村(美)		2	3	
毒性学	成松		1	3	
診断治療学	小倉, 戸部, 大西, 堀田, 中村(隆), 仁科		2	3	
総合薬学演習Ⅰ	竹内, 他各教員	1		4	旧科目名: 総合薬学概論Ⅰ
総合薬学演習Ⅱ	竹内, 他各教員		1	4	旧科目名: 総合薬学概論Ⅲ
卒業論文実習(卒業制作物を含む。)	各教授, 准教授	☆8		4	☆-必修科目
薬学国際交流演習	岡本, 他各教員		2	4	
病院・保険薬局実務実習	黒崎, 千堂, 三宅, 藤川, 出石, 富田, 石井, 西山, 柴部, 木邑, 洲脇, 藤波, 他		☆2	4	☆-必修科目
薬学セミナーⅠ	黒田, 他各教員		1	1	卒業要件外
薬学セミナーⅡ	黒田, 他各教員		1	2	卒業要件外
コミュニケーション入門	竹内, 増田, 他		1	1	卒業要件外 創薬科学科
医薬品開発序論	波多野, 竹内, 佐々木, 森山, 岡本, 土屋, 川崎, 成松, 木村		1	1・2	卒業要件外 創薬科学科

3 年次実習科目

授業科目	教員	単位	備考
基礎薬学系実習Ⅰ	勝, 御舩, 増田, 北村(陽)	1.5	4月10日(火)～4月27日(金)
基礎薬学系実習Ⅱ	永松, 岩藤, 竹内, 阿部, 奥田, 西岡, 伊東, 谷口	3	5月7日(月)～6月14日(木)
基礎薬学系実習Ⅲ	表, 大塚(正)	1	6月15日(金)～6月26日(火)
医療薬学系実習Ⅰ	田井, 合田	1	6月27日(水)～7月6日(金)
医療薬学系実習Ⅱ	杉本, 藤井	1	7月9日(月)～7月20日(金)
衛生薬学系実習	中尾, 三好, 埴岡, 根岸, 有元, 蜂谷, 鑛山, 黒田, 高橋, 小川	3	10月1日(月)～11月20日(火)
医療薬学系実習Ⅲ	金, 黒崎, 佐々木, 檜垣, 高山, 合葉, 大河原, 加来田	1.5	11月21日(水)～12月19日(水)

単 位 修 得 要 領

単位修得に関しては各自十分注意し余裕のある単位修得に努められたい。もし不注意により卒業できない等のことがある場合の責任は学生自身が負わなければならない。したがって単位修得の責任は自らにあることを自覚し単位を修得されたい。

1. 教養教育科目

- (1) 平成 15～19 年度入学者
別表第 1 (平成 19 年度入学者) , 別表第 1 - 5 (平成 18 年度入学者) または別表第 1 - 4 (平成 15～17 年度入学者) に示す科目 (30 単位以上) を修得することとする。
- (2) 平成 11～13 年度入学者
別表第 1 - 2 に示す科目 (32 単位以上) を修得することとする。

2. 専門教育科目

- (1) 平成 18～19 年度入学者
薬学科にあつては、別表第 2 に示す配当年次にしたが、専門基礎科目 10 単位、専門科目 157 単位 (必修科目 49 単位、選択科目 I 82 単位、選択科目 II 26 単位) 計 167 単位以上を修得することとする。
創薬科学科にあつては、別表第 3 に示す配当年次にしたが、専門基礎科目 10 単位、専門科目 98 単位 (必修科目 21 単位、選択科目 I 58 単位、選択科目 II 19 単位) 計 108 単位以上を修得することとする。
- (2) 平成 16～17 年度入学者
別表第 2 - 5 に示す配当年次にしたが、専門基礎科目 12 単位、専門科目 98 単位 (必修科目 20 単位、コア科目 68 単位、選択科目 10 単位) 計 110 単位以上を修得することとする。
- (3) 平成 11～15 年度入学者
別表第 2 - 2 (平成 11～13 年度入学者) または別表 2 - 4 (平成 15 年度入学者) に示す配当年次にしたが、専門基礎科目 16 単位、専門科目 90 単位 (必修科目 22 単位、選択科目 I 46 単位、選択科目 II 22 単位 (3 年次配当科目から 12 単位以上を含む。)) 計 106 単位以上を修得することとする。

3. 履修手続きの方法

- (1) 履修登録
学生は、学年の始めに示される授業時間割表及びシラバス等により立てた履修計画に基づき、各期 (前期、後期) に履修しようとするすべての授業科目を履修登録しなければならない。履修登録は、指定された期間中に学内のコンピュータ端末を利用して各自行うこととする (履修登録のない科目の単位修得は認められない)。履修登録後は、登録された履修科目が各自の計画どおり登録されているか必ず確認すること。
なお、教養教育科目の 1 年間に履修できる単位数の上限は 30 単位である。

(2) 履修科目の変更及び中途よりの履修

履修登録後は履修科目の変更及び中途よりの履修は原則として認めない。

但し、登録内容の誤りや上限単位数を超過などで、履修科目の追加又は変更を希望する場合は、指定された期間中に限り学内のコンピュータ端末を利用して変更等することができる。

(3) 履修科目の取消

履修届を提出した科目を途中で履修することができなくなった場合は、直ちにその科目の担当教員に申し出て取り消しの承諾を受けること。

なお、履修登録の取り消しについても追加・変更同様、指定された期間中に限り学内のコンピュータ端末を利用して取消しすることができる。

4. 単位認定

授業科目の単位認定は授業時間の2/3以上出席した者につき試験、レポート及び平素の成績を考慮して担当教員が判定する。なお、3年次実習は原則として全時間出席しなければならない。

5. 補講

担当教員が十分な講義回数を確保できないと判断した場合は、指定された以外の曜日・時限(休業中・水曜日午後等)に補講を行うことがある。

6. 試験

(1) 受験心得

受験にあたっては、次の各事項に留意してください。

- ① 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- ② 監督者が指定した座席において受験すること。
- ③ 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- ④ 受験中、机の上に置くことができるものは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。特に、携帯電話・PHS等は、必ず電源を切っておくこと。
- ⑤ 解答用紙には、所属学部等名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず万年筆又はボールペンで記入すること。
- ⑥ 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- ⑦ 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- ⑧ 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて退室すると無効になる。

⑨ 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。

なお、監督者の指示に従わない者、及び不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条（大学院学則第49条）により厳重な懲戒処分を行う。

(2) 追試験について

疾病その他やむを得ない事故により受験の延期を希望する者は、予め所定の書式により受験延期願を提出し、その理由が認められた場合に限り追試験を受験できる。その場合は改めて追試験受験願を提出すること。

なお、緊急事態により事前に願書が提出できない場合は、事態の回復後速やかにその旨教務学生係（教養教育科目については、学務企画課教務第二係）に申し出て指示を受けること。

7. 平成11～17年度入学者の卒業論文実習の履修資格について

(1) 平成16～17年度入学者（病院・保険薬局実務実習含）

3年次末までに、教養教育科目所定の30単位以上、専門基礎科目12単位以上、専門科目78単位以上、計120単位以上を修得した者に限り履修することができる。

(2) 平成14・15年度入学者（病院実習（H14入学者）、病院・保険薬局実務実習（H15入学者）含）

3年次末までに、教養教育科目所定の30単位以上、専門基礎科目16単位以上、専門科目72単位以上、計118単位以上を修得した者に限り履修することができる。

(3) 平成12・13年度入学者（病院実習含）

3年次末までに、教養教育科目所定の32単位以上、専門基礎科目16単位以上、専門科目72単位以上、計120単位以上を修得した者に限り履修することができる。

(4) 平成11年度入学者（病院実習含）

3年次末までに、教養教育科目所定の32単位以上、専門基礎科目16単位以上、専門科目70単位以上、計118単位以上を修得した者に限り履修することができる。

8. 平成18～19年度入学者の進級要件等について

I 薬学科

(1) 第3年次への進級（基礎薬学系実習Ⅰ～Ⅲ、衛生薬学系実習、医療薬学系実習Ⅰ～Ⅲ 履修要件）

2年次末までに、教養教育科目26単位以上、専門基礎科目8単位以上、専門科目30単位（選択科目Ⅰ30単位）以上、計64単位以上を修得した者とする。

(2) 第4年次への進級（実務実習事前教育1～5 履修要件）

3年次末までに、教養教育科目所定の30単位以上、専門基礎科目10単位以上、専門科目64単位（必修科目9単位、選択科目Ⅰ50単位、選択科目Ⅱ5単位）以上、計104単位以上を修得した者とする。

(3) 第5年次への進級（卒業論文実習・病院実務実習・薬局実務実習 履修要件）

4年次末までに、教養教育科目所定の30単位以上、専門基礎科目10単位以上、専門科目112単位（必修科目17単位、選択科目Ⅰ78単位、選択科目Ⅱ17単位）以上、計152単位以上を修得した者とする。

Ⅱ 創薬科学科

(1) 第3年次への進級（基礎薬学系実習Ⅰ～Ⅲ、衛生薬学系実習、医療薬学系実習Ⅰ～Ⅲ 履修要件）

2年次末までに、教養教育科目26単位以上、専門基礎科目8単位以上、専門科目30単位（選択科目Ⅰ30単位）以上、計64単位以上を修得した者とする。

(2) 第4年次への進級（卒業論文実習・応用薬学研究演習 履修要件）

3年次末までに、教養教育科目所定の30単位以上、専門基礎科目10単位以上、専門科目64単位（必修科目9単位、選択科目Ⅰ50単位、選択科目Ⅱ5単位）以上、計104単位以上を修得した者とする。

9. 修学指導並びに退学勧告について

病気その他やむを得ない事情が無いにもかかわらず、入学後、各年次終了時の全修得単位数が、下表に示す基準に満たない者については、学力・学修態度の改善の為、指導教員による修学指導を行う。

上記指導にもかかわらず、入学後5年（薬学科においては7年）経過（休学期間を除く）しても、卒業論文実習の履修資格を得られる見込みのない者については、退学を勧告する。

なお、本規定は、平成15年度入学者から適用する。

〈平成15～17年度入学者の年次別修得単位基準〉

年次	修得単位
1年次	30単位以上
2年次	70単位以上
3年次	上記7に示す卒業論文実習履修資格単位数

〈平成18～19年度入学者の年次別修得単位基準〉

Ⅰ 薬学科

年次	修得単位
1年次	30単位以上
2年次	上記8に示す薬学科第3年次進級要件単位数
3年次	上記8に示す薬学科第4年次進級要件単位数
4年次	上記8に示す薬学科第5年次進級要件単位数

II 創薬科学科

年次	修得単位
1年次	30単位以上
2年次	上記8に示す創薬科学科第3年次進級要件単位数
3年次	上記8に示す創薬科学科第4年次進級要件単位数

10. 平成18～19年度入学者の要件外科目の受講について

薬学部で開講されている他学科の専門教育科目を要件外科目として受講し、単位を修得するためには、次の事項を守らなければならない。

- 1 各学年で取得できる要件外科目数は以下のとおりである。
ただし、他学科の必修科目は受講できない。
- 2 受講できる科目は、その学生と同学年を対象として開講されている科目、あるいはその学生より低学年の学生を対象として開講されている科目に限る。
- 3 受講に際しては、授業担当教員の受講許可を得なければならない。

*科目数	薬学科	1～2年次	取得を認めない。
		3～4年次	1セメスターに1科目まで認める。
		5～6年次	1セメスターに2科目まで認める。
	創薬科学科	1～2年次	取得を認めない。
		3年次	1セメスターに1科目まで認める。
		4年次	1セメスターに2科目まで認める。

11. 副専攻コースについて

岡山大学では、平成17年度以降の入学生を対象に「副専攻コース*」を開設しているが、薬学部学生は4セメスター以降の日程が非常に過密なため、副専攻コースの履修を認めない。

*「副専攻コース」とは、各学部が編成する教育課程のほか、学生が所属する学部及び学科又は課程の専攻に係る分野において学習した知識をさらに広い視野のもとで有効に活かせることのできる能力を養うための教育課程を指します。

平成19年度 薬学部開講科目 読替対応表

平成19年度開講科目				平成18年度入学者		平成16～17年度入学者		平成15年度入学者		平成11～13年度入学者	
授業科目	学年	期	区分	授業科目	区分	授業科目	区分	授業科目	区分	授業科目	区分
有機化学Ⅰ	1年	前	専基	有機化学Ⅰ	専基	有機化学Ⅰ	専基	有機化学	専基	有機化学	専基
生物化学Ⅰ	1年	前	専基	生物化学Ⅰ	専基	生物化学Ⅰ	専基	細胞生物学	専基	細胞生物学	専基
物理化学	1年	前	専基	物理化学	専基	物理化学	専基	物理化学	専基	物理化学	専基
薬用植物学	1年	前	薬:選択Ⅱ 創:選択Ⅰ	薬用植物学	薬:選択Ⅱ 創:選択Ⅰ	薬用植物学	選択	薬用植物学	専基	薬用植物学	専基
無機薬化学	1年	前	選択Ⅰ	無機薬化学	選択Ⅰ	無機薬化学	コア		卒業要件外		卒業要件外
生薬学Ⅰ	1年	後	選択Ⅰ	生薬学Ⅰ	選択Ⅰ	生薬学Ⅰ	コア	生薬学Ⅰ	選択Ⅰ	生薬学Ⅰ	選択Ⅰ
薬品物理化学Ⅰ	1年	後	選択Ⅰ	薬品物理化学Ⅰ	選択Ⅰ	薬品物理化学Ⅰ	コア	薬品物理化学Ⅰ	選択Ⅰ	薬品物理化学Ⅰ	選択Ⅰ
有機化学Ⅱ	1年	後	選択Ⅰ	有機化学Ⅱ	選択Ⅰ	有機化学Ⅱ	コア	有機薬化学Ⅰ	選択Ⅰ	有機薬化学Ⅰ	選択Ⅰ
微生物学	1年	後	選択Ⅰ	微生物学	選択Ⅰ	微生物学	コア	微生物学	選択Ⅱ	微生物学	選択Ⅱ
生理学	1年	後	専基	生理学	専基	生理学	専基	生理学	専基	生理解剖学	専基
生物化学Ⅱ	1年	後	専基	生物化学Ⅱ	専基	生物化学Ⅱ	専基	生理化学Ⅰ	専基	生理化学Ⅰ	専基
臨床医学入門	-	後	教養	臨床医学入門	教養	臨床医学入門	教養	臨床医学入門	専基	臨床医学入門	専基
					卒業要件外		卒業要件外		卒業要件外	薬学概論	専基
生物化学Ⅲ	2年	前	専基	生物化学Ⅲ	専基	生物化学Ⅲ	専基	生理化学Ⅱ (病態生化学を含む。)	選択Ⅰ	生理化学Ⅱ (病態生化学を含む。)	選択Ⅰ
有機化学Ⅲ	2年	前	選択Ⅰ	有機化学Ⅲ	選択Ⅰ	有機化学Ⅲ	コア	有機薬化学Ⅱ	選択Ⅱ	有機薬化学Ⅱ	選択Ⅱ
薬剤学	2年	前	選択Ⅰ	薬剤学	選択Ⅰ	薬剤学	コア	薬剤学Ⅰ	選択Ⅰ	薬剤学Ⅰ	選択Ⅰ
人体解剖学	2年	前	薬:選択Ⅰ 創:選択Ⅱ	人体解剖学	薬:選択Ⅰ 創:選択Ⅱ	人体解剖学	選択	人体解剖学	選択Ⅱ		卒業要件外
薬品分析学Ⅰ	2年	前	選択Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	選択Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	コア	薬品分析学Ⅰ	選択Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	選択Ⅰ
放射薬品学・放射線概論	2年	前	薬:選択Ⅱ 創:選択Ⅰ	放射薬品学・放射線概論	薬:選択Ⅱ 創:選択Ⅰ		卒業要件外		卒業要件外		卒業要件外
生物化学Ⅳ	2年	前	選択Ⅰ	生物化学Ⅳ	選択Ⅰ	生物化学Ⅳ	コア	薬品化学Ⅰ	選択Ⅰ	薬品化学Ⅰ	選択Ⅰ
薬効解析学Ⅰ	2年	前	選択Ⅰ	薬効解析学Ⅰ	選択Ⅰ	薬効解析学Ⅰ	コア	薬物学Ⅰ	選択Ⅰ	薬物学Ⅰ	選択Ⅰ
薬品物理化学Ⅱ	2年	前	選択Ⅰ	薬品物理化学Ⅱ	選択Ⅰ	薬品物理化学Ⅱ	コア	薬品物理化学Ⅱ	選択Ⅰ	薬品物理化学Ⅱ	選択Ⅰ
生物統計学	2年	前	専基	生物統計学	専基	生物統計学	専基	生物学的検定法	専基	生物学的検定法	専基
生薬学Ⅱ	2年	前	選択Ⅰ	生薬学Ⅱ	選択Ⅰ	生薬学Ⅱ	コア	生薬学Ⅱ (漢方薬学を含む。)	選択Ⅱ	生薬学Ⅱ (漢方薬学を含む。)	選択Ⅱ
感染症治療学	2年	前	選択Ⅰ	感染症治療学	選択Ⅰ	感染症治療学	コア	微生物薬品化学 (醗酵化学を含む。)	選択Ⅰ	微生物薬品化学 (醗酵化学を含む。)	選択Ⅰ
製剤学	2年	後	選択Ⅰ	製剤学	選択Ⅰ	製剤学	コア	医薬品設計学・製剤学	選択Ⅰ	医薬品設計学・製剤学	選択Ⅰ
生体防御機能学Ⅰ	2年	後	選択Ⅰ	生体防御機能学Ⅰ	選択Ⅰ	生体防御機能学Ⅰ	コア	生物薬品製造学Ⅰ (薬品免疫学Ⅰ)	選択Ⅰ	生物薬品製造学Ⅰ (免疫学入門)	選択Ⅰ
薬品製造工学	2年 3年		H19休講	薬品製造工学	選択Ⅱ	薬品製造工学	選択	薬品製造工学	選択Ⅱ	薬品製造工学	選択Ⅱ
内分泌化学	2年 3年		H19休講	内分泌化学	選択Ⅱ	内分泌化学	選択	内分泌化学	選択Ⅱ	内分泌化学	選択Ⅱ
コンピュータ化学	2年	後	選択Ⅱ	コンピュータ化学	選択Ⅱ	コンピュータ化学	選択	コンピュータ化学	選択Ⅱ	コンピュータ化学	選択Ⅱ
生物物理化学	2年	後	選択Ⅰ	生物物理化学	選択Ⅰ	生物物理化学	コア	生物物理化学	選択Ⅱ	生物物理化学	選択Ⅱ
薬品分析学Ⅱ	2年	後	選択Ⅰ	薬品分析学Ⅱ	選択Ⅰ	薬品分析学Ⅱ	コア	薬品分析学Ⅱ	選択Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	選択Ⅱ
病理学	2年 3年	後	2年:選択Ⅱ 3年:選択	病理学	選択Ⅱ	病理学	選択	病理学	選択Ⅱ	病理学	選択Ⅱ
癌の生物学	2年	後	選択Ⅱ	癌の生物学	選択Ⅱ	癌の生物学	選択	薬品化学Ⅱ	選択Ⅱ	薬品化学Ⅱ	選択Ⅱ
生物化学Ⅴ	2年	後	選択Ⅰ	生物化学Ⅴ	選択Ⅰ	生物化学Ⅴ	コア	生体情報解析学・ 細胞情報伝達科学	選択Ⅱ	生体情報解析学・ 細胞情報伝達科学	選択Ⅱ
有機反応化学 医薬品構造解析学	2年	後前後	選択Ⅰ 選択Ⅰ	有機反応化学 医薬品構造解析学	選択Ⅰ 選択Ⅰ	有機反応化学 医薬品構造解析学	コア コア	医薬品製造学	選択Ⅱ	医薬品製造学	選択Ⅱ
漢方処方学	2年	後	薬:選択Ⅰ 創:選択Ⅱ	漢方処方学	薬:選択Ⅰ 創:選択Ⅱ	漢方処方学	コア		卒業要件外		卒業要件外
衛生薬学Ⅰ	2年	後	選択Ⅰ	衛生薬学Ⅰ	選択Ⅰ	衛生薬学Ⅰ	コア	衛生化学Ⅰ	選択Ⅰ	衛生化学Ⅰ	選択Ⅰ
薬効解析学Ⅱ	2年 3年	後前	選択Ⅰ コア	薬効解析学Ⅱ	選択Ⅰ	薬効解析学Ⅱ	コア	薬物学Ⅱ	選択Ⅰ	薬物学Ⅱ	選択Ⅰ
医薬品開発学	3年	前	コア	医薬品開発学	コア	医薬品開発学	コア		卒業要件外		卒業要件外
生体防御機能学Ⅱ	3年	前	コア	生体防御機能学Ⅱ	コア	生体防御機能学Ⅱ	コア		卒業要件外		卒業要件外
病院薬学	3年	前	選択	病院薬学	選択	病院薬学	選択	病院薬学	選択Ⅰ	病院薬学	選択Ⅰ
調剤学	3年	前	コア	調剤学	コア	調剤学	コア	薬剤学Ⅱ	選択Ⅰ	薬剤学Ⅱ	選択Ⅰ
医薬化学	3年	前	コア	医薬化学	コア	医薬化学	コア	合成薬品製造学Ⅰ	選択Ⅰ	合成薬品製造学Ⅰ	選択Ⅰ
生物薬剤学	3年	前	コア	生物薬剤学	コア	生物薬剤学	コア	生物薬剤学	選択Ⅰ	生物薬剤学	選択Ⅰ
ゲノム創薬学	3年	前	コア	ゲノム創薬学	コア	ゲノム創薬学	コア		卒業要件外		卒業要件外
薬物治療学Ⅰ	3年	前	コア	薬物治療学Ⅰ	コア	薬物治療学Ⅰ	コア	臨床薬学Ⅰ	選択Ⅰ	臨床薬学Ⅰ	選択Ⅰ

平成19年度 薬学部開講科目 読替対応表

平成19年度開講科目				平成18年度入学者		平成16～17年度入学者		平成15年度入学者		平成11～13年度入学者	
授業科目	学年	期	区分	授業科目	区分	授業科目	区分	授業科目	区分	授業科目	区分
衛生薬学Ⅲ	3年	前	コア	衛生薬学Ⅲ	コア	衛生薬学Ⅲ	コア	衛生化学Ⅱ	選択Ⅰ	衛生化学Ⅱ	選択Ⅰ
医薬品情報学	3年	前	コア	医薬品情報学	コア	医薬品情報学	コア	医薬品情報学	選択Ⅰ	医薬品情報学	選択Ⅰ
衛生薬学Ⅱ	3年	前	コア	衛生薬学Ⅱ	コア	衛生薬学Ⅱ	コア	公衆衛生学	選択Ⅰ	公衆衛生学	選択Ⅰ
コミュニティファーマシー	3年	後	コア	コミュニティファーマシー	コア	コミュニティファーマシー	コア		卒業要件外		卒業要件外
臨床医薬品治療学Ⅱ	3年	後	コア	臨床医薬品治療学Ⅱ	コア	臨床医薬品治療学Ⅱ	コア		卒業要件外		卒業要件外
衛生薬学Ⅳ	3年	後	コア	衛生薬学Ⅳ	コア	衛生薬学Ⅳ	コア	環境衛生化学	選択Ⅰ	環境衛生化学	選択Ⅰ
診断治療学	3年	後	選択	診断治療学	選択	診断治療学	選択	診断治療学	選択Ⅰ	診断治療学	選択Ⅰ
複素環化学	3年	後	選択	複素環化学	選択	複素環化学	選択	有機薬化学Ⅲ	選択Ⅱ	有機薬化学Ⅲ	選択Ⅱ
毒性学	3年	後	選択	毒性学	選択	毒性学	選択		卒業要件外		卒業要件外
薬効解析学Ⅲ	3年	後	コア	薬効解析学Ⅲ	コア	薬効解析学Ⅲ	コア	薬物学Ⅲ	選択Ⅱ	薬物学Ⅲ	選択Ⅱ
薬物治療学Ⅱ	3年	後	コア	薬物治療学Ⅱ	コア	薬物治療学Ⅱ	コア	臨床薬学Ⅱ	選択Ⅰ	臨床薬学Ⅱ	選択Ⅰ
臨床医薬品治療学Ⅰ	3年	後	コア	臨床医薬品治療学Ⅰ	コア	臨床医薬品治療学Ⅰ	コア		卒業要件外		卒業要件外
臨床薬学	3年	後	選択	臨床薬学	選択	臨床薬学	選択	臨床薬学Ⅲ	選択Ⅱ	臨床薬学Ⅲ	選択Ⅱ
薬事法規 薬事行政	3年	後 後後	コア コア	薬事法規 薬事行政	コア コア	薬事法規 薬事行政	コア コア	薬事法規	専基	薬事法規	専基
国際医療保健学	3年	後	選択	国際医療保健学	選択	国際医療保健学	選択		卒業要件外		卒業要件外
細胞療法・診断学	3年	後	選択	細胞療法・診断学	選択	細胞療法・診断学	選択	免疫療法学	選択Ⅱ	化学療法・免疫療法学	選択Ⅱ
医療薬学入門	1年	通年	薬:選択Ⅱ	医療薬学入門	薬:選択Ⅱ		卒業要件外		卒業要件外		卒業要件外
創薬科学入門	1年	通年	創:選択Ⅱ	創薬科学入門	創:選択Ⅱ		卒業要件外		卒業要件外		卒業要件外
薬学セミナーⅠ	1年	通年	卒業要件外	薬学セミナーⅠ	卒業要件外	薬学セミナーⅠ	選択	薬学セミナーⅠ	選択Ⅱ		卒業要件外
薬学セミナーⅡ	2年	通年	卒業要件外	薬学セミナーⅡ	卒業要件外	薬学セミナーⅡ	選択	薬学セミナーⅡ	選択Ⅱ		卒業要件外
コミュニケーション入門	1年	通年	卒業要件外	コミュニケーション入門	卒業要件外		卒業要件外		卒業要件外		卒業要件外
医薬品開発序論	1年 2年	後	卒業要件外	医薬品開発序論	卒業要件外		卒業要件外		卒業要件外		卒業要件外
総合薬学演習Ⅰ	4年	前	選択Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ	選択Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ	選択	総合薬学概論Ⅰ	選択Ⅱ		卒業要件外
総合薬学演習Ⅱ	4年	後	選択Ⅱ	総合薬学演習Ⅱ	選択Ⅱ	総合薬学演習Ⅱ	選択	総合薬学概論Ⅲ	選択Ⅱ		卒業要件外
基礎薬学系実習Ⅰ	3年	前	必修	基礎薬学系実習Ⅰ	必修	基礎薬学系実習Ⅰ	必修	基礎薬学系実習Ⅰ	必修	基礎薬学系実習Ⅰ	必修
基礎薬学系実習Ⅱ	3年	前	必修	基礎薬学系実習Ⅱ	必修	基礎薬学系実習Ⅱ	必修	基礎薬学系実習Ⅱ	必修	基礎薬学系実習Ⅱ	必修
基礎薬学系実習Ⅲ	3年	前	必修	基礎薬学系実習Ⅲ	必修	基礎薬学系実習Ⅲ	必修	基礎薬学系実習Ⅲ	必修	基礎薬学系実習Ⅲ	必修
衛生薬学系実習	3年	後	必修	衛生薬学系実習	必修	衛生薬学系実習	必修	衛生薬学系実習	必修	衛生薬学系実習	必修
医療薬学系実習Ⅰ	3年	前	必修	医療薬学系実習Ⅰ	必修	医療薬学系実習Ⅰ	必修	医療薬学系実習Ⅰ	必修	医療薬学系実習Ⅰ	必修
医療薬学系実習Ⅱ	3年	前	必修	医療薬学系実習Ⅱ	必修	医療薬学系実習Ⅱ	必修	医療薬学系実習Ⅱ	必修	医療薬学系実習Ⅱ	必修
医療薬学系実習Ⅲ	3年	後	必修	医療薬学系実習Ⅲ	必修	医療薬学系実習Ⅲ	必修	医療薬学系実習Ⅲ	必修	医療薬学系実習Ⅲ	必修
病院・保険薬局実務実習	4年	集中	必修	病院・保険薬局実務実習	必修	病院・保険薬局実務実習	必修	病院・保険薬局実務実習	必修	病院実習	必修
薬学国際交流演習	4年	集中	卒業要件外	薬学国際交流演習	卒業要件外	薬学国際交流演習	卒業要件外	薬学国際交流演習	卒業要件外		卒業要件外
卒業論文実習 (卒業制作物を含む。)	4年	通年	必修	卒業論文実習 (卒業制作物を含む。)	必修	卒業論文実習 (卒業制作物を含む。)	必修	卒業論文実習 (卒業制作物を含む。)	必修	卒業論文実習 (卒業制作物を含む。)	必修

外部検定試験等による単位認定基準に関する取扱要項

〔平成16年4月1日〕
学 長 裁 定

改正 平成18年2月22日

改正 平成19年1月24日

(趣旨)

第1条 この要項は、岡山大学における教養教育科目の外国語科目に係る外部検定試験等による単位認定に関する基準等について、必要な事項を定めるものとする。

(対象科目・外部検定試験等)

第2条 単位認定の対象となる授業科目及び外部検定試験等は、別表第1から別表第5のとおりとする。

- 2 大学間交流協定に基づく語学研修の学修成果に係る取扱いは、別表第6のとおりとする。
- 3 前2項において、平成10年度以前入学者については、平成11年度入学者に係る取扱いを準用することができる。

附 則

- 1 この要項は、平成19年4月1日から施行する。
- 1 第2条第2項に係る取扱いは、平成18年度に実施される語学研修プログラムより適用する。

※ 別表第4（平成15年度入学者）及び別表第5（平成14年度～平成11年度入学者）については、掲載を省略していますので、必要な方は薬学部教務学生係へお問い合わせください。

別表第1の1 (平成19年度以降入学者適用)

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数	
英語	【英語関係Ⅰ】 Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	470～585点 (OT3)	別表第1附表-1の③から⑥の中より選択 2単位	
		590～725点 (OT2)	別表第1附表-1の③から⑥の中より選択 4単位	
	実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT)	準1級	別表第1附表-2の①から⑥の中より 選択 4単位	
		B級		
		500点以上		
		173点以上		
	【英語関係Ⅱ】 Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	730点以上 (OT1)	別表第1附表-1の②から⑥の中より選択 6単位	
		実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT)	1級	別表第1附表-2の①から⑥の中より 選択 8単位
	A級			
	550点以上			
213点以上				
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 (独検)	4級	ドイツ語初級Ⅰ(文法) } ドイツ語初級Ⅰ(読本) } 4単位 ドイツ語初級Ⅱ(文法) ドイツ語初級Ⅱ(読本) 又は ドイツ語初級Ⅰ(総合) 4単位	
		3級以上	ドイツ語初級Ⅱ(総合) 4単位 又は ドイツ語中級 4単位	
	フランス語	実用フランス語技能検定試験 (仏検)	5級	フランス語初級Ⅰ(文法) 又は フランス語初級Ⅰ(読本) 2単位
			4級	フランス語初級Ⅰ(文法) } フランス語初級Ⅰ(読本) } 4単位 フランス語初級Ⅱ(文法) フランス語初級Ⅱ(読本) 又は フランス語初級Ⅰ(総合) 4単位
中国語	漢語水平考試 (HSK)	基礎1級	中国語初級Ⅰ(文法) 又は 中国語初級Ⅰ(読本) 2単位	
		基礎2級	中国語初級Ⅰ(文法) } 中国語初級Ⅰ(読本) } 4単位 中国語初級Ⅱ(文法) 中国語初級Ⅱ(読本)	
		基礎3級及び 初中等1級以上	中国語中級 4単位	

別表第1の2（平成19年度以降入学者適用）

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数
韓国語	韓国語能力試験	1級	韓国語初級Ⅰ（文法） 韓国語初級Ⅰ（読本） 韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本） 又は 韓国語初級Ⅰ（総合） } 4単位 } 4単位
		2級以上	韓国語初級Ⅱ（総合） 又は 韓国語中級 } 4単位 } 4単位
スペイン語	スペイン語技能検定	6級	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） } 又は 2単位
		5級	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		4級以上	スペイン語中級 } 4単位
イタリア語	実用イタリア語検定	5級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） } 又は 2単位
		4級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		3級以上	イタリア語中級 } 4単位

- 備考**
- 1 成績の取り扱いは「認定」とする。
 - 2 外部検定試験等による単位認定は、一外国語につき8単位を限度とする。
 - 3 英語に関しては、【英語関係Ⅰ】と【英語関係Ⅱ】は重複して単位認定の対象とする。
 - 4 ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語及びイタリア語に関しては、一つの授業科目について外部検定試験等による単位認定は1回限りとする。
 - 5 法学部夜間主コース及び経済学部夜間主コースは、別表第1の2に掲げる科目（韓国語、スペイン語及びイタリア語）については卒業要件に含まれていないため、認定の対象とはなりません。

別表第1附表-1 (平成19年度以降入学者適用)

項番	授業科目名	備考	
①	経済実用英語 英語 (工学部)		<ul style="list-style-type: none"> ・経済学部についてはOT1, OT2及びOT3 (470点以上) の認定対象科目に含める ・工学部についてはOT1 (730点以上) の認定対象科目に含める
②	英語 (ネイティブ)	OT1	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学部についてはOT2 (590点~725点) の認定対象科目に含める ・工学部についてはOT2 (590点~725点) の認定対象科目に含める
③	英語 (オラコン)	OT2	
④	英語 (作文・文法)		
⑤	英語 (読解)		
⑥	英語 (検定)		

別表第1附表-2 (平成19年度以降入学者適用)

項番	授業科目名
①	英語 (教育学部) 経済実用英語 英語 (理学部) 英語 (基礎医用英語) 英語 (工学部) 英語 (環境理工1) 英語 (環境理工2) 英語 (環境理工3) 英語 (環境理工4) 英語 (MPコース)
②	英語 (ネイティブ)
③	英語 (オラコン)
④	英語 (作文・文法)
⑤	英語 (読解)
⑥	英語 (検定)

別表第2 (平成18年度入学者適用)

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数	
英語	【英語関係Ⅰ】 実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT) Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	準1級 B級 500点以上 173点以上 61点以上 586点以上	別表第2附表の①から⑧の中より選択 4単位	
	【英語関係Ⅱ】 実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT) Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	1級 A級 550点以上 213点以上 79点以上 730点以上	別表第2附表の①から⑧の中より選択 8単位	
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 (独検)	4級	ドイツ語初級Ⅰ (文法) ドイツ語初級Ⅰ (読本) ドイツ語初級Ⅱ (文法) ドイツ語初級Ⅱ (読本) 又は ドイツ語初級Ⅰ (総合)	4単位 4単位
		3級以上	ドイツ語初級Ⅱ (総合) 又は ドイツ語中級	4単位 4単位
フランス語	実用フランス語技能検定試験 (仏検)	5級	フランス語初級Ⅰ (文法) 又は フランス語初級Ⅰ (読本)	2単位
		4級	フランス語初級Ⅰ (文法) フランス語初級Ⅰ (読本) フランス語初級Ⅱ (文法) フランス語初級Ⅱ (読本) 又は フランス語初級Ⅰ (総合)	4単位 4単位
		3級以上	フランス語初級Ⅱ (総合) 又は フランス語中級	4単位 4単位
中国語	漢語水平考試 (HSK)	基礎1級	中国語初級Ⅰ (文法) 又は 中国語初級Ⅰ (読本)	2単位
		基礎2級	中国語初級Ⅰ (文法) 中国語初級Ⅰ (読本) 中国語初級Ⅱ (文法) 中国語初級Ⅱ (読本)	4単位
		基礎3級及び 初中等1級以上	中国語中級	4単位

別表第2の2（平成18年度入学者適用）

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数
朝鮮語	韓国語能力試験	1級	朝鮮語初級Ⅰ（文法） 朝鮮語初級Ⅰ（読本） 朝鮮語初級Ⅱ（文法） 朝鮮語初級Ⅱ（読本） 又は 朝鮮語初級Ⅰ（総合） 4単位
		2級以上	朝鮮語初級Ⅱ（総合） 又は 朝鮮語中級 4単位
スペイン語	スペイン語技能検定	6級	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） 又は 2単位
		5級	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） 4単位
		4級以上	スペイン語中級 4単位
イタリア語	実用イタリア語検定	5級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） 又は 2単位
		4級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） 4単位
		3級以上	イタリア語中級 4単位

- 備考
- 1 成績の取り扱いは「認定」とする。
 - 2 外部検定試験等による単位認定は、一外国語につき8単位を限度とする。
 - 3 英語に関しては、【英語関係Ⅰ】と【英語関係Ⅱ】は重複して単位認定の対象とする。
ただし、【英語関係Ⅰ】の中での単位認定は1回限りとする。
 - 4 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、スペイン語及びイタリア語に関しては、一つの授業科目について外部検定試験等による単位認定は1回限りとする。
 - 5 法学部夜間主コース及び経済学部夜間主コースは、別表第2の2に掲げる科目（朝鮮語、スペイン語及びイタリア語）については卒業要件に含まれていないため、認定の対象とはなりません。

別表第2附表（平成18年度入学者適用）

項番	授業科目名
①	英語（教育学部） 経済実用英語 英語（理学部） 英語（基礎医用英語） 英語（歯学部） 英語（工学部） 英語（環境理工1） 英語（環境理工2） 英語（環境理工3） 英語（環境理工4） 英語（MPコース）
②	英語（ネイティブ）
③	英語（オラコン）
④	英語（作文・文法）
⑤	英語（読解：人文）
⑥	英語（読解：社会）
⑦	英語（読解：自然）
⑧	英語（検定）

別表第3 (平成16年度～平成17年度入学者適用)

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数	
英語	【英語関係Ⅰ】 実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT) Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	準1級 B級 500点以上 173点以上 61点以上 586点以上	別表第3附表の①から⑧の中より選択 4単位	
	【英語関係Ⅱ】 実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT) Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	1級 A級 550点以上 213点以上 79点以上 730点以上	別表第3附表の①から⑧の中より選択 8単位	
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 (独検)	4級	ドイツ語初級Ⅰ (文法) ドイツ語初級Ⅰ (読本) ドイツ語初級Ⅱ (文法) ドイツ語初級Ⅱ (読本) 又は ドイツ語初級Ⅰ (総合)	4単位 4単位
		3級以上	ドイツ語初級Ⅱ (総合) 又は ドイツ語中級	4単位 4単位
フランス語	実用フランス語技能検定試験 (仏検)	5級	フランス語初級Ⅰ (文法) 又は フランス語初級Ⅰ (読本)	2単位
		4級	フランス語初級Ⅰ (文法) フランス語初級Ⅰ (読本) フランス語初級Ⅱ (文法) フランス語初級Ⅱ (読本) 又は フランス語初級Ⅰ (総合)	4単位 4単位
		3級以上	フランス語初級Ⅱ (総合) 又は フランス語中級	4単位 4単位
中国語	漢語水平考試 (HSK)	基礎1級	中国語初級Ⅰ (文法) 又は 中国語初級Ⅰ (読本)	2単位
		基礎2級	中国語初級Ⅰ (文法) 中国語初級Ⅰ (読本) 中国語初級Ⅱ (文法) 中国語初級Ⅱ (読本)	4単位
		基礎3級及び 初中等1級以上	中国語中級	4単位

別表第3の2（平成16年度～平成17年度入学者適用）

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数
朝鮮語	韓国語能力試験	1級	朝鮮語初級Ⅰ（文法） 朝鮮語初級Ⅰ（読本） 朝鮮語初級Ⅱ（文法） 朝鮮語初級Ⅱ（読本） 又は 朝鮮語初級Ⅰ（総合） 4単位
		2級以上	朝鮮語初級Ⅱ（総合） 又は 朝鮮語中級 4単位
スペイン語	スペイン語技能検定	6級	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） 又は 2単位
		5級	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） 4単位
		4級以上	スペイン語中級 4単位
イタリア語	実用イタリア語検定	5級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） 又は 2単位
		4級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） 4単位
		3級以上	イタリア語中級 4単位

- 備考
- 1 成績の取り扱いは「認定」とする。
 - 2 外部検定試験等による単位認定は、一外国語につき8単位を限度とする。
 - 3 英語に関しては、【英語関係Ⅰ】と【英語関係Ⅱ】は重複して単位認定の対象とする。
ただし、【英語関係Ⅰ】の中での単位認定は1回限りとする。
 - 4 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、スペイン語及びイタリア語に関しては、一つの授業科目について外部検定試験等による単位認定は1回限りとする。
 - 5 法学部夜間主コース及び経済学部夜間主コースは、別表第3の2に掲げる科目（朝鮮語、スペイン語及びイタリア語）については卒業要件に含まれていないため、認定の対象とはなりません。

別表第3附表（平成16年度～平成17年度入学者適用）

項番	授業科目名
①	英語（教育学部） 経済実用英語 英語（理学部） 英語（医学英語1） 英語（医学英語2） 英語（基礎医用英語） 英語（歯学部） 英語（薬学部1） 英語（薬学部2） 英語（工学部） 英語（環境理工1） 英語（環境理工2） 英語（環境理工3） 英語（環境理工4） 英語（基礎農学英語）
②	英語（ネイティブ）
③	英語（オラコン）
④	英語（作文・文法）
⑤	英語（読解：人文）
⑥	英語（読解：社会）
⑦	英語（読解：自然）
⑧	英語（検定）

別表第6（大学間交流協定に基づく語学研修の学修成果に係る取扱い）

語学研修大学名	合格基準	認定科目	認定単位数	備考
南オレゴン大学	南オレゴン大学の成績評価 D（下級）以上	教養教育科目 外国語科目 英語 又は 専門教育科目 (認定科目の指定は各学部の定めに委ねる)	2単位	平成11年度以降 入学者より適用
アデレード大学	アデレード大学の成績評価 D以上	教養教育科目 外国語科目 英語 又は 専門教育科目 (認定科目の指定は各学部の定めに委ねる)	4単位まで	平成11年度以降 入学者より適用

別表第1参考 (平成19年度以降入学者適用)

外部検定試験等による単位認定について

- 入学時TOEIC-IPで470点を取得(【英語関係I】の合格基準)した後、他のTOEIC(例:カレッジTOEIC)で590点を取得(【英語関係I】の合格基準)した場合

TOEIC-IP 470点英語(オラコン)	認定(2単位)	
TOEIC-IP 590点英語(作文・文法)	認定(2単位)	計4単位
※【英語関係I】の単位認定の上限は4単位のため、6単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで470点を取得(【英語関係I】の合格基準)した後、英検で準1級を取得(【英語関係I】の合格基準)した場合

TOEIC-IP 470点英語(オラコン)	認定(2単位)	
英検準1級英語(作文・文法)	認定(2単位)	計4単位
※【英語関係I】の単位認定の上限は4単位のため、6単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで470点を取得(【英語関係I】の合格基準)した後、他のTOEIC(例:カレッジTOEIC)で730点を取得(【英語関係II】の合格基準)した場合

TOEIC-IP 470点英語(オラコン)	認定(2単位)	
TOEIC-IP 730点英語(作文・文法)	認定(2単位)	
	英語(検定)	認定(2単位)	計6単位
※TOEIC【英語関係I及びII】の単位認定の上限は6単位のため、8単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで470点を取得(【英語関係I】の合格基準)した後、国連英検でA級を取得(【英語関係II】の合格基準)した場合

TOEIC-IP 470点英語(オラコン)	認定(2単位)	
国連英検A級英語(教育学部)	認定(2単位)	
	英語(読解)	認定(2単位)	
	英語(検定)	認定(2単位)	計8単位
※単位認定は一外国語につき8単位が限度のため、10単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで590点を取得(【英語関係I】の合格基準)した後、他のTOEIC(例:カレッジTOEIC)で700点を取得(【英語関係I】の合格基準)した場合

TOEIC-IP 590点英語(オラコン)	認定(2単位)	
	英語(作文・文法)	認定(2単位)	計4単位
TOEIC-IP 700点			
※【英語関係I】の単位認定の上限は4単位のため、8単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで590点を取得(【英語関係I】の合格基準)した後、英検で準1級を取得(【英語関係I】の合格基準)した場合

TOEIC-IP 590点英語(オラコン)	認定(2単位)	
	英語(作文・文法)	認定(2単位)	計4単位
英検準1級			
※【英語関係I】の単位認定の上限は4単位のため、8単位として認定はしない			

別表第2及び第3参考 (平成16年度～18年度入学者適用)

外部検定試験等による単位認定について

- 英検準1級に合格 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した後, TOEFL・CBTで213点以上を取得 (【英語関係Ⅱ】の合格基準) した場合

英検準1級 英語 (教育学部) 認定 (2単位)
英語 (ネイティブ) 認定 (2単位)

TOEFL・CBT213点以上 英語 (作文・文法) 認定 (2単位)
英語 (読解: 人文) 認定 (2単位)
※8単位として認定はしない

- 英検準1級に合格 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した後, TOEFL・CBTで173点以上, 212点以下を取得 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した場合

英検準1級 英語 (読解: 人文) 認定 (2単位)
英語 (検定) 認定 (2単位)

TOEFL・CBT (173点以上212点以下) ※追加認定はしない

- TOEICで730点以上を取得 (【英語関係Ⅱ】の合格基準) した場合

TOEIC (730点以上) . . . 英語 (教育学部) 認定 (2単位)
英語 (読解: 人文) 認定 (2単位)
英語 (読解: 社会) 認定 (2単位)
英語 (検定) 認定 (2単位)

- 独検4級に合格した場合

独検4級 ドイツ語初級Ⅰ (文法), ドイツ語初級Ⅰ (読本),
ドイツ語初級Ⅱ (文法), ドイツ語初級Ⅱ (読本) から認定 (4単位)
※初級Ⅰあるいは初級Ⅱのみで4単位の認定ができる。

- 韓国語能力試験についても, 独検と同様に単位認定を行う。

- 仏検5級に合格した後, 仏検4級に合格した場合

仏検5級 フランス語初級Ⅰ (文法) 認定 (2単位)

仏検4級 フランス語初級Ⅰ (読本), フランス語初級Ⅱ (文法),
フランス語初級Ⅱ (読本) から認定 (2単位)
※認定済みのフランス語初級Ⅰ (文法) の認定はしない

- 仏検5級を受けずに仏検4級に合格した場合

仏検4級 フランス語初級Ⅰ (文法), フランス語初級Ⅰ (読本),
フランス語初級Ⅱ (文法), フランス語初級Ⅱ (読本) から認定 (4単位)
※初級Ⅰあるいは初級Ⅱのみで4単位の認定ができる。

- 中国語漢語水平考試, スペイン語技能検定, 実用イタリア語検定についても, 仏検と同様に単位認定を行う。